



主從心得草

上

9
3457
1

草 得 心 從 主



口 9
3457
1-7

藏書

自序

凡^レ重^レ君^レたる者^ハ米^ノ賦^ノ上下^ノの^レ思^ハわれども^ノ家^ノ本^ノ本^レれ
使^ハひやう^ノ又^ハ出入^ノの^レ老^トも^ノ困^ハひやう^ノ至^ル大^ニ切^ニ思^フは
復^シ使^ハふ^レ米^ノと^シて^ハま^ニま^ニ皇^ノ家^ノ治^リり^ハす^レ所^ナら
百^ノ使^ハふ^レ者^ハ射^シて^ハ若^クれ^ハを^レた^レ罪^ノ科^トを^レあ^シめ^ル。
百^ノ半^ノに^レ付^テも^シ一^ニ毫^ノ思^ハふ^レも^シ一^ニ毫^ノの^レ心^ノも^シ一^ニた
あ^シ。百^ノ使^ハふ^レ者^ハあ^シく^シも^シあ^シく^シ何^レも^シ其^ノ家^ノ和^合を^レ成^ス。
私^ノ合^セざる^レ時^ハ皇^ノと^シ治^スる^レ者^ハ國^ノ私^ニれ^ル。私^ノ私^ノを^レ保^フる^レ者^ハ

書出

皇

皇
命
書
出

本
下
心
六

五
八

11
6.05

依て文理も属せぬ。文字のお遠もわろ。又音借
のいや〜さおもく見ず。只早く合点のは安き
をほし〜人あふ居〜唯何のあづか
て書〜のち第ひ

文政六未歳正月善修日

東都浅草新寺町

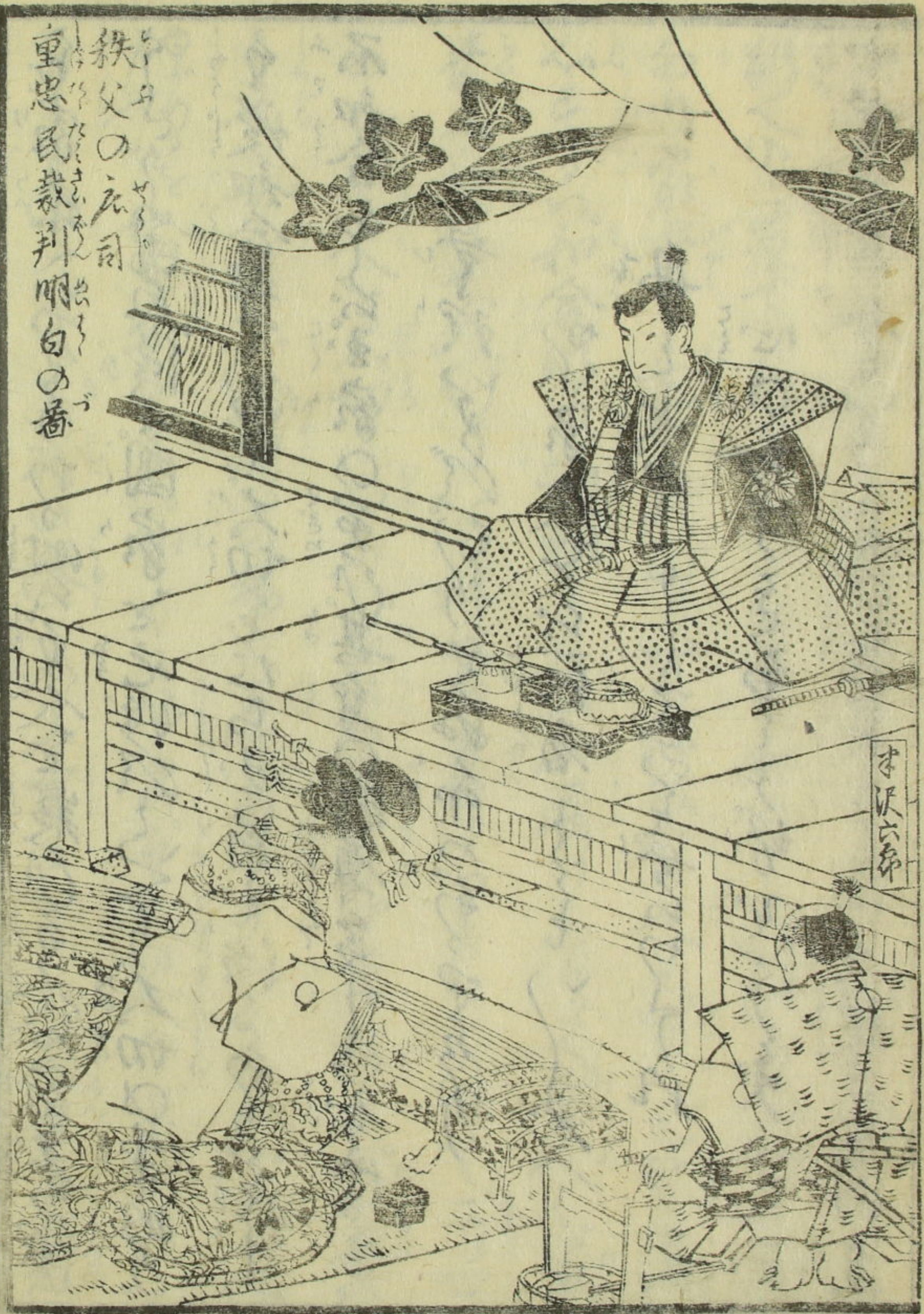
壽福軒真鏡述



主従心得の半

卷の上

利運候の怒れ利運ひ〜。史富貴榮華の上下たに
好〜貧乏困窮の上下たひ〜。わを此抱の上下ひ
何〜。若き物の上下たひ〜。樂む半の上下たひ。樂し
骨折働〜半の上下たひ〜。是人情の常也。怒
や心の如〜と書て。己がゆ〜。や半の上下たひ。あ
半ふれ〜。儀之。後〜。家身はめりて人のい
を渡され〜。やおのれが好む。他人も好む。あ
後同候あれ。他人情を〜。他人をおは〜。た〜。



終日終ふふかえんふの僻米也それば莊子は白駒の
 脛短しとくども是をつぐも憂あへ病の脛長しや
 くとども是と截む悲しあへ脛の長きも切膚ならん
 おも續なるべしとて自らを自身おはあす終日
 にくらぶ或は他身を他身はつる身如何が心は
 とくし放ふ中とてははるありあは
 自身たふ我終あへ終の中
 人の世は〜が〜あ〜ら〜ん
 人の世の如〜の如〜世間の人無き心

主従心得上

み及んでる備らへんは求むべし
舟心の君子の忠恕ある故に安し。又君子の道理の
正を以てせざればよろこばず人の忠恕あるは人
の道なり。又道理を以てせざれば己が心より安んず
る事あり。又君子の其人の得たる事なれば
力のほかに者あり。この事なり。又物に大業を
成せんと欲する者も、徳を以て破れざる事あり。徳
を以て成す人なり。分別あり。何れも人なり。人を
使ふ事、徳に成す人の徳を以て成すべし。又徳の

御遺訓を考へ
心学は各々よく。従者を以て成す人の事を見
るが如し。徳の板は多し。徳の板は多し。徳の板は多し。
おんせと取められ。始終相の固まり。中庸に仕入り。
雑色は仕入り。見斗ふ。仕入り。徳が量に
かたむ。時々の事。仕入り。徳が量に。不覚ある時。さ
みれむ。徳の板は多し。徳の板は多し。徳の板は多し。
只初より。見斗ふ。仕入り。徳の板は多し。徳の板は多し。
は細流を以て成す。大なる事。仕入り。徳の板は多し。

在定心學上

身み一いつ身みたすべし方かたあり。後のちにわらわが命いのちあり世よの
中なかのもの思おもあるといふ能あたり。熟じやくく世よの事ことあり。わらわも
る物ものをえるに思おものあつらふもの。ツのなす。尾び籠かごありが
ら。大だい使し小せう使しの石いし津つの身み一いつまて。人の様さまがる物ものあり。大だい使し
は。重おもの極ごく品ひんにて。立た教きやく珍ちん菜さいと書かひたつら。世よの物ものの
あり。身みれが。大だい使しの思おもを思おもひあひ。飯いひ時とき。重おもの目め之こ
たつと。おもしろい。ふと。おもしろい。老らう入にる。命いのち。あつ
著しやくあり。わらわ。地ち伊い代だいの思おもひ。あつ
父ふ母ぼや。人ひとの思おもを。あつ
たつと。おもしろい。ふと。おもしろい。老らう入にる。命いのち。あつ

炭すす薪たき茶ちや麦むぎ夏なつよ。くろく。あつ
志し川がわ山やま旅りゆうの。行いと。あつ
左さ傳でん哀あ公こうの。卷まき。日ひ人ひとを。愛あいする。あつ
其その身みを。有あは。半はんの。あつ
世よの。人ひとの。思おもひ。あつ
を。たつと。あつ
え。る。村むらの。人ひとを。愛あいする。あつ
す。ら。と。あつ
世よの。物ものを。あつ

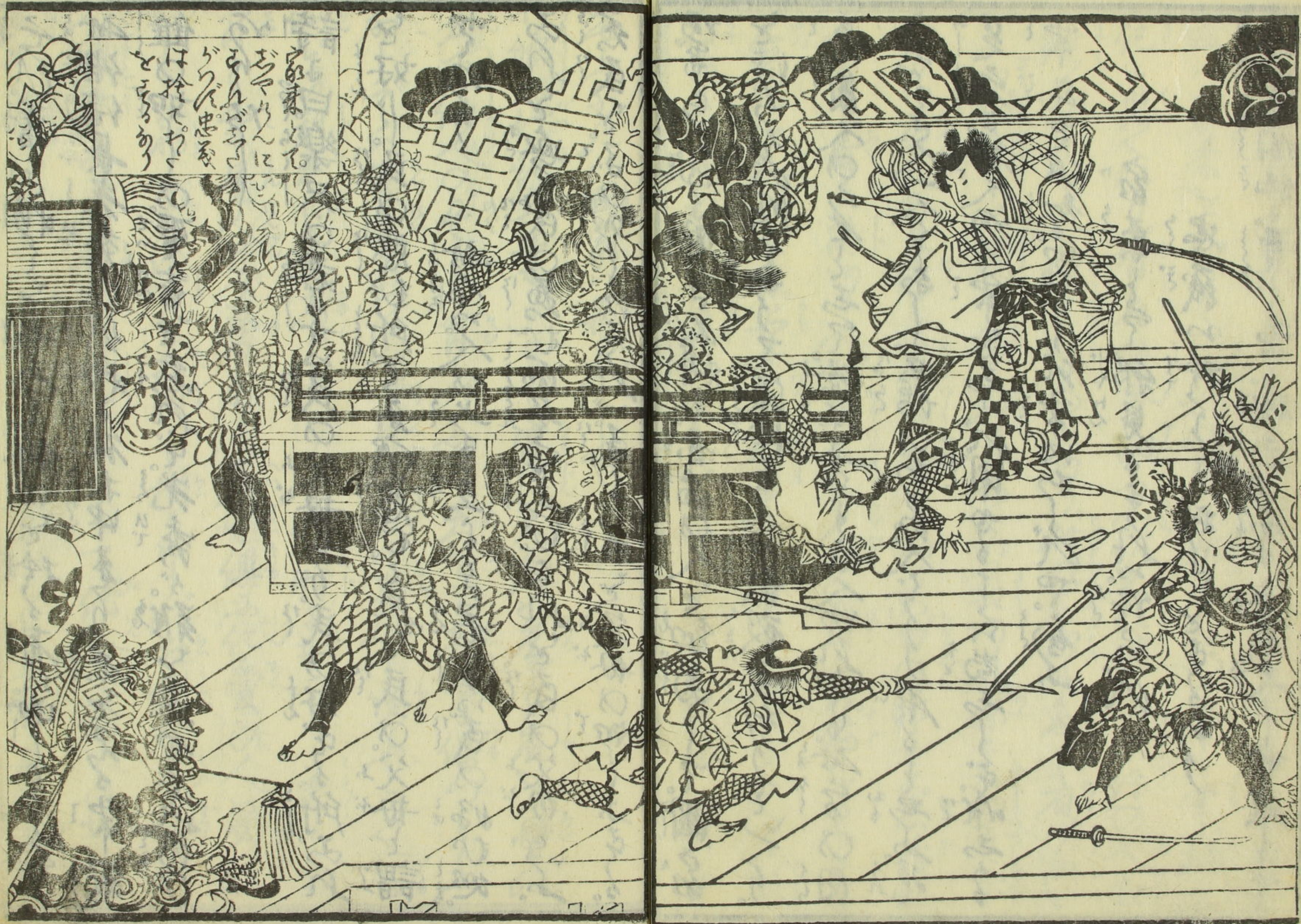
左傳哀公の卷曰人を愛するあつ
其身を有は半のあつ
世の人と思ひあつ
をたつとあつ
える村の人を愛するあつ
すらとあつ
世の物をあつ

三行

彼ありてこそなり。此者物もりら大勢の供也。ありて守護し。こやまらぬの名称なり。護法菩薩。法倫あり。頭の尊し。是の果し。置法。のそふと愛し。是の年。此を傷て可あしや。やんく。法界を治し。考くよ。

二七因縁。毎教あり。世界ふ山あり。谷あり。海あり。川あり。一切の事。物。の平等あり。ぬさぬあり。人貴。後。會。福。あり。人。衆。の。下。一切の有情の形。大小。有。は。有情の。高。下。あり。至。七。ふ。山。谷。あり。國。土。の。事。なり。

他昔神や仏の山を築。食。は。せ。られ。た。る。を。あ。げ。ん。鬼。神。仙。人。の。仕。業。も。亦。く。云。地。自。然。の。姿。あり。物。も。大。小。下。あり。一。枚。の。平等。に。なる。物。の。切。用。あり。た。く。む。富。も。種。類。あり。一。半。の。事。も。一。枚。の。富。貴。の。人。も。一。半。に。なる。万。半。備。用。が。測。り。ぬ。也。貴。族。の。人。が。ありて。家。業。と。成。て。ま。の。業。を。勤。ま。い。た。る。万。の。用。は。測。り。ぬ。事。あり。是。刹。土。の。元。生。の。愚。痴。人。の。愚。なり。下。人。と。な。り。て。あ。ら。む。富。貴。あり。論。語。の。後。も。家。以。道。あり。ち。の。あ。ら。む。業。と。あり。小。あり。



家来として
おんりんに
せんばあ
がのん忠義
は捨てお
をるめ

主従心得上

主従心得上

五

五

その舊を悔しをりて新田を捨る者ありしとや
所信信長光秀の所信は終に中をり。君をりて半冠
雖の如しの聖言を忘れど光秀が罪をせむは終に
有りたり

詩曰樂只の君子民の父母あり民の好む所あれ
を好む民の惡む所を惡むと民の父母と謂
や有り 然る人の上は君と君子の民の好む也
あれを與へ民の惡む所を止むと民の父母と云
君民を子の如くにせむは民を君を父母の如くせむる

わがふあれの國家の泰平とや

小條九代記兵書より。寛仁大度の唐く氣を嘗み
天下諸人の心を背ぐとて天下とお俱に保つとや
あつては安泰ふちとて且格別に思はれはつとや
何ぞの私を口におくのみ一時におたり。悉くお
背く半是人君の常あり。平生俱に愛の人の必
わがふあれの國をとお同く相うらへばお祝む是食
人情半にゆぐ世方の仕方はもうて他人の又わくの如し
其人の嗜むべきは正道明路の人をせんと大業ありとや

仁義礼の正道をふまざらん徳ひ起りたる所なきは
 卑劣なりす。い時後人不忠の用ふまざらん徳ひ起りたる所なきは
 忠信義士たるは何れの中なり。心憂せざらん味方
 あり。愛を言ふ者あるは家の名を保つるの根也
 扱又人たる者。家子の入用とふ。家素をばたつ家
 二面あり。渠も人の子あり。とふ。家素をばたつ家
 爲れ大納を致す。東下向。前古田の宿あり。旅籠や
 の亭より。下男を打擲するをんてあるは
 あり。これあるは。他人のあり。ひまを

おむとひ子よ。あひくくくよ

尊保の以安。最果重死。衝役を勤られ。州出仕の
 折。高き。つ。階。積。已。た。に。河。原。の。丁。稚。素。是。あ。り。び
 かし。け。何。れ。心。用。い。と。す。ま。せ。ぬ。う。と。あ。り。や。り。て。徳。利。ひ
 折。屋。を。の。ふ。と。何。り。く。心。駕。の。内。より。え。む。ひ。不。使。さ。る

世の思や。これ他人の子。博く徳ひ

竹香白の。心。より。え。む。び。万。民。と。あ。り。む。お。半。銀。ひ。を。一
 又。延。享。の。次。淡。系。ゆ。花。お。お。西。島。と。く。人。あり。香。の。お。し
 疾。速。子。何。と。石。使。ひ。の。丁。稚。と。つ。れ。出。る。と。ん。て。女。房

髪白とあり。おろ子あり。借りの借りが。夜の手とひ
音れ。面を借とつて出たり。中面白き。むじり。感
情深。人のきり。者世ありたり。

わくと。鬼角。い。れ。む。ご。く。と。お

くれも。お。あ。ど。き。人の子だう。

石は。人。お。は。く。く。あり。と。ら。ひ

信。古。も。あ。ど。せ。ぬ。も。の。い。り

唐土の陶。淵。明。の。手。前。の。牌。子。小。童。一。人。その。中。送。り

し。汝。い。お。ろ。子。お。ろ。人。の子。也。不。使。と。く。く。て。汝。も。産。し

せ。び。送。り。し。連。の。若。子。と。世。心。と。く。く。て。又。人。世。身。上

の。多。く。の。婚。礼。祝。儀。の。時。過。分。の。抽。入。し。て。と。れ。り。不。如。意

と。あり。半。あり。高。貴。の。運。ぶ。運。の。力。に。あ。り。て。是。身。か。お

意。と。し。半。と。あ。り。其。時。の。花。火。と。あ。り。起。る。半。あり

別。る。女子。嫁。入。の。交。交。あり。世。の。の。り。抽。入。と。お。あ。り。の。あり

己。が。分。を。知。り。た。る。人。も。お。や。ま。る。半。あり。況。や。分。治。と。ふ

ず。花。美。を。好。む。人。お。放。り。お。や。是。お。用。と。娘。の。不。月。也。と。て

あ。り。起。る。半。也。い。お。り。放。り。分。治。の。場。止。す。る。唐。し

大。半。の。不。あり。お。ろ。と。知。る。し。是。と。あ。り。と。れ。り。其。後。の

はるまじき事。要也人。切有て。當ある時。至事。大ひま。
倦疲。くつろ。見と。あれ。是と。ん。漢よ。

又人の家。庭を切。強盜。あるを。盗人と。斗。ま。あ。も。わ。ら。
む。兵。ら。の。あ。ら。い。重。と。つ。を。り。よ。加。言。と。ん。内。強。ひ。
て。つ。も。人。の。物。を。掠。む。私。曲。伎。術。よ。こ。下。合。り。上。下。
の。別。れ。痛。極。と。ある。あ。ま。緒。緒。ま。る。人。と。思。自。為。擔。し。
て。我。は。疎。と。思。す。ら。役。人。の。大。飛。く。物。つ。り。を。吟。味。ま。て。
紛。ま。ぎ。ら。る。も。あ。ま。ま。と。半。才。一。あり。い。こ。の。もの。と。大。
切。や。と。思。む。と。半。と。世。當。界。の。白。あ。ら。

御。明。君。あり。明。鏡。の。如。く。吾。人。と。奉。悪。人。を。押。す。半。
才。ま。ま。人。の。職。分。也。兎。角。賢。人。と。奉。用。ひ。ご。れ。ば。空。虚。
と。て。あ。や。う。と。半。累。卵。の。如。く。ま。ま。子。下。も。也。仁。賢。
と。信。ぜ。ざ。ら。ば。國。空。虚。あり。禮。義。あ。り。耐。ら。と。下。私。さ。
と。何。り。人。の。者。ら。使。用。せ。る。の。ち。之。弊。の。鼻。陶。と。
奉。湯。の。伊。尹。と。奉。武。王。の。呂。十。人。有。て。天下。平。と。あり。又。
猶。借。り。も。也。あ。ら。い。もの。を。引。奉。て。用。ひ。狂。を。る。者。と。は。
捨。錯。履。し。美。物。の。者。也。引。お。び。用。ひ。れ。ば。民。服。せ。ら。
る。と。何。れ。要。事。を。引。出。し。者。と。思。も。ら。ゆ。履。し。は。悪。人。の。

半もわり。優とありて。心の内子。油のせむぎ。優者。と使
 も有り。何れも管有。一。梶原が。徳言。子。優。多。くの
 人と。換。め。め。や。り。に。く。ど。此。条。の。所。為。と。され。ど。此。条。の
 意。心。の。其。極。子。わ。り。ん。ど。梶。原。の。も。未。世。の。ひ。供。く。ら。ん。ど
 は。此。条。の。終。り。前。世。の。陰。徳。の。果。報。あ。る。と。又。新。朝。の。梶
 原。が。徳。言。を。信。因。志。わ。り。ま。わ。り。梶。原。子。徳。を。さ。せ。て
 又。も。用。ひ。わ。り。極。子。見。せ。て。飛。を。梶。原。子。あ。り。わ。り。行。り。
 既。小。身。者。の。内。子。年。時。わ。り。ま。る。時。京。時。一。方。小。身。者。
 者。半。わり。是。と。不。清。子。あ。り。百。ん。道。徳。と。志。て。徳。念。中。

頼朝公梶原と
河内公因



の道書清とせらるる半あり。其為権友也。意まで
仰身らるる所の。京師が中。衆倍用あり。お辱む。新朝に
あつたあ。景時が後。之をせ。子。後。絶。おど。其。か。あ
る。わ。あ。辱。う。所。書。ひ。も。概。系。が。後。一。け。る。と。必。得。あ。あ
の。如。く。あ。一。あ。ひ。後。日。あ。の。浮。物。ゆ。り。と。さ。う。く。是。世。上。の。云
法。あり。概。系。と。後。言。の。後。人。の。後。ひ。を。あ。あ。あ。と。覺。古。漢
治。つ。て。謀。臣。遠。飛。と。驚。る。如。く。後。仲。孫。絶。お。ど。新。朝。公
の。為。は。皆。罪。と。交。む。ひ。一。也。又。世。二。方。あ。ど。其。通。に。お
お。て。も。新。朝。公。の。首。と。ち。り。後。あ。あ。あ。人。と。あ。わ。る。る。自。立

の心わらう。れ。たる。半。故。交。有。是。お。依。て。新。朝。公。害。一。玉。を
わ。り。あ。れ。い。是。止。半。と。得。さ。る。は。困。や。る。半。く。常。に。交。一。て。
好。む。半。あ。ら。わ。る。る。半。と。の。人。の。害。と。あ。る。半。の。せ。め。者
あり。皆。手。お。の。不。仕。合。と。あ。る。周。星。の。及。理。必。然。あり。急
交。一。も。辱。一
急。と。急。方。交。わ。る。ん。下。あ。り。は。あ。ら。辱。上。と。又。急。せ。一
る。怒。つ。ぬ。も。の。こ。あ。ひ。や。り。あ。る。方。に。あ。く。る。わ。つ。ぬ。半
あり。を。後。一。致。せ。務。む。相。成。就。せ。地。も。の。也。古。借。目。を。記
四。方。ら。る。る。急。く。式。の。身。上。あ。る。急。公。人。と。急。わ。ら。あ。る

新朝公の首とちり後あああ人とおわるる自立
急と急方交わるん下ありはあら辱上と又急せ一
る怒つぬものこあひやりある方にあくるわつぬ半
ありを後一致せ務む相成就せ地もの也古借目を記
四方らるる急く式の身上ある急公人と急わらある

は。毛が半之。皆。年々。人々。その。如。く。也。悟。り。ま。す。の。上。子。を。生。ま。す。
 人。の。半。半。も。せ。ひ。や。う。が。あ。く。ま。ら。人。の。体。体。を。ぬ。り。の。こ。を。
 取。て。教。育。さ。す。に。び。お。し。し。て。お。し。し。て。お。し。し。て。お。し。し。て。
 も。の。こ。を。お。し。し。し。て。お。し。し。し。て。お。し。し。し。て。お。し。し。し。て。
 産。ま。す。家。業。の。身。の。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。
 作。が。し。く。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。
 毛。奴。と。油。を。と。り。て。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。
 毎。日。く。く。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。
 け。り。の。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。
 入。用。の。人。多。し。考。へ。な。し。

又。人。あり。と。家。業。を。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。
 け。り。の。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。
 あり。儲。環。翻。濃。盛。衰。波。の。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。
 ば。日。出。れ。ば。月。お。く。を。其。子。長。き。れ。ば。親。没。さ。る。が。如。し。
 各。々。覚。悟。あ。る。べ。し。又。天。子。の。土。地。の。御。奉。公。天。下。
 は。天。子。の。御。奉。公。天。下。の。名。義。が。あ。る。と。ま。り。と。ま。り。と。ま。り。と。
 せ。ら。る。あ。り。上。下。を。と。り。て。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。
 の。元。と。ま。り。の。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。あ。か。し。と。

へんは福徳の根源安んじの獨也。あうとあうべん能
ありとくごの身と備えん。家びさのくごさる馬
兼ともいふ。極くのおんばりり。人々合路を知り。
身とくごくたもち。家内和合して善んを。よく吉也。
いふ。重後のお得もある。半の夫。学。勉。矩の原
と考れ也。

八佾舞三。定公問君臣と使臣君事。如何孔子
對曰。君臣と使に禮を以て。臣君事。忠。以て。之
を。世の君は。従ふ。半の。草の。風も。あひくが

如し。君臣と使ふ。礼を以て。之れ。臣。必。忠。を。以て。君
君。礼を。考。く。臣。も。自。く。不。忠。あ。る。半。あり。然。れ。た
君。臣。の。不。忠。を。智。免。ぶ。と。て。礼。の。た。く。と。を。然。る。べし。
臣。の。君。の。礼。の。た。く。と。を。あ。ら。ん。君。の。た。く。と。を。忠。ん。べし。
君。臣。の。た。く。と。を。終。り。と。す。大。切。を。あ。ら。半。あり。べし。
後。亦。あ。ら。ん。就。老。て。子。お。せ。し。ら。ん。作。逆。あ。ん。ぢ。や。く
あ。れ。ば。身。も。あ。ら。ん。史。會。を。ん。が。書。も。あ。ら。ん。ら。れ。ば
お。と。強。く。て。後。者。子。せ。し。ら。ん。さ。ら。ん。と。い。は。れ。ど。と。れ。の
各。列。を。人。の。持。柄。し。つ。ら。ん。の。と。あ。ら。ん。で。家。を。と。す

三ノリキ

ナ

むしぐさのみの来りわしんはわるべき事也。易の海庵の
風邪を殺むるの殺せざるを理も角
あつた人よ好てらばおとあべい

大学曰縉蠻たる黄鳥丘隅ふ止る子の曰止るに
於て其止る所を知人を以て鳥はなもあつざるをん

やとてり 世に老いぬる鳥のあつて黄鳥は

い方の常のやふもの其少き何のあつてもあつても
あれども丘隅と險阻ある。歌れ山はゆる人ふあつてぬ
用にとする。そあぶあげのやいふをえんて何び現や
人とあつて身をお急のあつて止る。鳥のあつておと

とあつて孔子を御評判せむとあつて

止る。信とあつて教ふ止る。子とあつて孝ふ止る。

父とあつて慈ふとあつて常のゆひの至る止る。

止る。あつて知るとあつて道の家来のおまの

とあつて。是安んのおまの家のあり

とあつて。是安んのおまの家のあり

とあつて。是安んのおまの家のあり

とあつて。是安んのおまの家のあり

とあつて。是安んのおまの家のあり

主従心得上

十九

志海一頁の陽報して。あつて其音ひとわて玉の
 せあり。何分人の血肉。その苦累を待辱し。又人の
 地とてあつて。あつてを中む者。その真加よとあつて。
 後仕合つて。是又佛聖人の教あり。善愛心深くし
 老子曰。天網恢々として。疎あれども失せざるを。
 世に。そのあつて。唐く何くもれども。悪業を志す。
 ぬのくで。なる者一人もあつて。信らねたり。誠とあつて。
 瑜伽論曰。業天の悩す所。作者あつて。之ども。
 業果自く。属を。逃る業と得難く。之あり

佛の大道の飛人と責ん。あつてあつて。自無く
 おのれとあつて。苦患とあつて。あり。あつて。あつて。
 業あつて。毒量毒海。天道施張。自然礼奉とあつて。
 せらるる。前ふ

あつて。業。人あつて。あつて。あつて。
 天の口。あつて。あつて。あつて。
 河。あつて。あつて。あつて。あつて。
 責。あつて。あつて。あつて。あつて。
 きれい。あつて。あつて。あつて。あつて。

主従の上

三三三

その所来た。地獄ありあり
と人とおぼくやまじ。きこえて

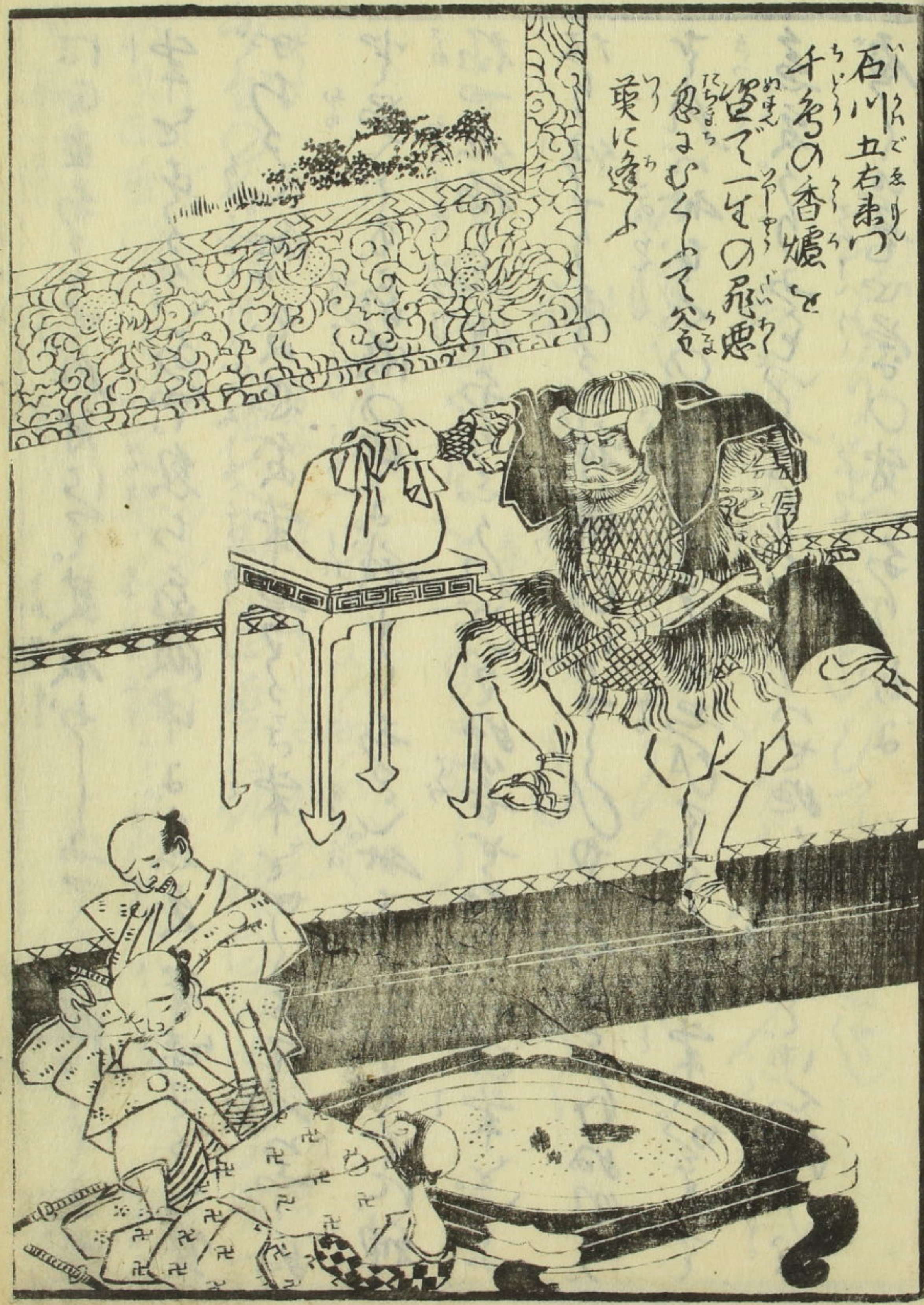
其たぐし。此を。おぼく。屋敷なり
何半と。角世男の。おぼく。半

あつた。は。い。も。あつた。あつた
あつた。人。と。行く。あつた。あつた

は。い。あつた。あつた。あつた

あつた。あつた。あつた。あつた

あつた。あつた。あつた。あつた



石川五右衛門
千名ノ香爐
あつた。あつた。あつた。あつた

儂り多く、慢しして他人を儂り、心は角わりて、彼
 和の半にも人と来ひ、命の法くきて、富貴の人は倍
 らひ、家業と不精しして、身おこさず、心もたれ、勤
 苦は多し、俗儒の記誦詩章の族たひひする者
 の書を、信んぢて、くども、大業一毫もなざるおかれ也。
 世書國字、無学而の社も、く、学問と志て、天下は、
 理と知り、天下の業替と、く、せんとも、
 名、利潤の爲も、む、お、
 と、洞室の学といひ、書籍と多く、賞へたら、と、
 の学といふ、世を、と、
 下の志、の、俗儒といひ、
 兼る、
 志、
 学者の如く、
 たる、
 文あると、
 道といふ、
 朝夕おの、

の学といふ、世を、と、
 下の志、の、俗儒といひ、
 兼る、
 志、
 学者の如く、
 たる、
 文あると、
 道といふ、
 朝夕おの、

ちる者の及てござる。世一おあが他人家らとあはれ。我
 らふあはぬ。半がめると。こゝろあふ居らう。か。妻は父
 を捨て。親をへ帰らう。はまこが。こあこの身のおこ
 まぬ。おや。この親と名の。おれお者や。其ん
 とあり。こゝろだの。こゝろあ。若あり。とあ。あ。何
 半も。き。入。せ。ぬ。ま。や。あ。い。ぬ。お。い。あ。この
 心。出。半。で。喜。父。子。科。の。こ。こ。ぬ。世。道。和。と。會。得。る
 て。徳。恵。の。徳。り。あ。入。微。塵。ご。り。も。お。い。え。と。こ。さ。げ。ん
 美。実。ふ。勤。め。ら。う。あ。れ。と。あ。この。南。人。で。あ。り。あ。が。る。を。母

用を知。ぬ。人。ト。や。大。成。利。の。あ。る。半。と。い。ふ。て。さ。う。せ。よ
 ち。や。あ。の。や。あ。南。ひ。て。と。百。の。地。が。き。費。よ。あ。る。南。ひ
 は。ご。さ。う。さ。い。身。た。づ。あ。妻。用。の。百。の。地。が。あ。る。費。あ。ら。う。あ
 南。ひ。で。お。さ。る。其。伏。い。て。あ。この。妻。子。親。の。た。つ。こ。さ。い。入。ご
 ら。さ。う。さ。い。一人。の。孝。行。は。れ。い。一。家。一。門。の。つ。あ。あ。あ。り。世。界。中
 の。人。が。あ。の。や。あ。妻。子。の。あ。い。ぬ。く。美。実。ふ。孝。行。者。ト。や
 せ。考。ら。れ。す。ん。き。人。の。親。と。孝。行。さ。る。印。子。で。幾。百。人。に
 何。い。せ。く。あ。ら。う。と。や。あ。れ。せ。ぬ。又。子。の。く。不。孝。ま。ご。こ。こ
 して。幸。抱。あ。ら。う。と。て。親。を。へ。帰。り。又。い。な。さ。あ。と。さ。う。と。

人なり。是古昔の人あり。井の田に墾くわんとてくわんなり。一かど
見大忠義孝行の人なり。為らるる人あり。有
船一歌あり。大方の音人あり

又一切の音半と。其実心より。其時ひびくは。若
城のふり。出暮に。其人のまづ。候少と。うらぐ。斗りに。是
忠義孝行といふ人なり。是又。道入の方便あり。

忠義半の候少といふ人なり。若返少も。忠半と。ま
是又忠半と。孟子より。仁義の善徳をまゐる人。是
仁義を以て人。盗人の善徳をまゐる人。是盗人ありと

なり。越えの又。志を。心切。まを。むし
也。又仁に。固あり。其改。作られたり。
是皆半。入の。迫りあり。仁。盗人。其に
其業を。其。徳目。あり。心。身。の
其。是。飛科。の。近。の。お
御方。御。の。善。の。人。御。美
下。是。大。政。要。実。録。は。人。御。將
の。是。を。は。け。て。あ。る。人
又。八。百。屋。お。七。の。家。を。焼。人。と。さ。ら。せ。し。の。業。が。あ。る。人

おくも其人は何れも人爲とせしが然らざるは亦ありてたゞ
 小物也。然れども。其作をありたるものありて。ちかぢかり
 ありし。是れも亦其才之優劣ありたる。其の道は
 ありし。半見るべし。醤油と入る。醤油徳利酒と入る。が
 酒徳利とある。今人も其如く。飯をも酒をも。吾人も
 吾人も。其の要人とありて。飯をも酒をも。吾人も。吾人も
 何と見ても。吾人も。吾人も。又學文の學といふ。吾人も
 似といふ。何の事かを。吾人も。吾人も。昔の聖人君子
 子。道徳の行ひを。吾人も。吾人も。其徳は。吾人も。吾人も

半と云ふ。吾人も。吾人も。人曰く。吾人も。吾人も。吾人も
 道の爾と云ふ。吾人も。吾人も。是を遠と云ふ。吾人も。吾人も
 其れを。吾人も。吾人も。其れを。吾人も。吾人も。其の長と長
 也。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も

よき事なり。吾人も。吾人も。ありとも。吾人も。吾人も。吾人も
 一つ。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も

是も道なり。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も
 右も。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も
 吾人も。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も。吾人も



小童おと
あらしきる

親の門の通りと。用あはは
 ぬがふるふ。まきるまき
 敷くよ。ゆつとす。ゆくまは
 永居の免角。おそれあふ
 我ひより。はと免とす。ゆき
 あらしきる。ゆき。ゆき。ゆき
 合半と。あはびびと。味あ
 くれ。あは人の。ゆき。ゆき
 ゆき。合半。ゆき。ゆき。ゆき

何れも忠義新く孝行
くま掃除礼義配膳何事の
あざらしくふせぬ清くその
奉地とくみんあつら何事も
もくも仕違ふ傳授ありり
利口ありそ業多きと所定地と
履容不律義うせにそのま
用事あつらいて是居をんどの
居すてりよ。うせと君命

正重し業利よれつむ人
候業中もあつらふあり
高きとく覺くるが命
病く這入のえ手とれ
出せとせんとあつら身とつ
よ此業よのあつら
手代あつらよれつむ
使ひつらあつら
何事ゆんがたのものと

三巻の巻上

三

著者の提燈灯ていとうとうまじりく。丁ちやう稚子ちやくし依よハ。おまりのおま堪た忍にんまま忍にん
 子こととははささめめぐぐりりすすてて後あままちちららすすせせぬぬゆゆくくおおりり
 はは後ごあありり自みづかららすするるがが文ぶんをを堪た忍にんままるるががややああららずず
 子こららがが昔むかし日ひととれれのの心こころ得とく遠とほひひででごごららるる。知ちががあありり
 親ちちのの親ちち方かたをを親ちちののややあありりてて道みちすするるゆゆにに親ちち方かたをを子こ
 のの如ごとくくああららずずとといいははるるすすををせせぬぬ。未まがが道みちすするるすすいい後ご
 友ともあありりああららずずててつつのの後あままちちららすすせせぬぬといいふふややるるがが。
 何なんたりり。後ごああららずずのの害がいままををああららせせぬぬ。後あままちちららすすせせぬぬ。ああららずず
 らられれぬぬががああららずず。目め先まへををあありりとと初はじめめすすてて薩さつ田でん向むか

ととままるる極ごくままああららずずがが教しよるるののててここらら。親ちちのの手て元もとにに居い居いしし
 たりり。おおののおおががささららいいせせままいいものもの初はじめめああららせせぬぬ。ままととああららずず
 ははここらら。親ちちももああららずず。起たげげ。後ごもも終はりりたたいいののととああららずずてて勤つとめめ
 子こららがが子こでで兄あににに別わかれれたたららああららずず。人ひとのの子こもも終はりりすす。
 二につつららごごららずず。ああららずずののややああららずず。慈じ悲ひ心しんががごごららずず。いいででらら。後ご
 手て代だいのの出で来きすするる。いいのの堪た忍にんのの状じやうがが篤とくとともも入いりりををせせぬぬとと。
 文ぶん理りがが半はんがが多おほくくごごららずず。其その状じやうのの丁ちやう稚ちやく女によ子しをを呼よぶぶにに
 二に度どもも二に度どのの返へん事じががああららずず。とといいふふををままははししてて。
 是これ後あららずず。身みををいいははるる。ああららずず。大おほききをを呼よぶぶ。最さい初しよめめ

主従心得上

七十一

法の為人の爲に。蓋ちる事なればあり。悪を以て用ひし人
法と云ふ害の半。亦たひぬりた。くは火の如し。火を
よく用ひれば。身はいつく先。念を著て。大ひは蓋なり。
おしき用ひれば。家を焼。身はいつく。くは火の如し。火を
に害のり。宜ま準例とす。知る者。以下の巻より
〜合息とす〜



淡筆の書

